

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第30号
平成27年7月7日発行
発行:千葉県がんセンター

理念

心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは一人でも多くの患者さんに
質の高いがん治療を提供します。

病院をあげての改革実行へ

千葉県がんセンター病院長 永田 松夫



腹腔鏡下手術に関連した医療事故のマスコミ報道等で、皆様に大変なご迷惑、ご不安、ご心配をおかけしましたことを改めて心底よりお詫び申し上げます。現在私どもは、第三者検証委員会からいただいた提言に沿って改革本部を立ち上げ、病院をあげて改革に取り

組んでいるところです。医療倫理、医療安全安心、インフォームド・コンセント、医療情報、保険診療の各分科会で、ベテランから若手までの幅広いスタッフが熱心に討議し、従前にくらべてずっと高レベルで厳格なシステムをつくり、順次実行に移しつつあります。この改革を確実に診療の現場に適用・浸透させ、他のどのがん専門病院にも勝るとも劣らない質の高いがん医療を提供し、すべての患者・家族の皆様が心から納得し満足していただけるようにいたします。

当センターは、がん専門病院として、がんに罹った患者さんのためにあらゆる努力を尽くすことを改めて決意します。一般病院でも可能ながん治療の他に、臨床試験を含む先進的治療、高難度な手術・化学療法・放射線療法なども積極的に推進する役目を担っています。倫理・医療安全の両面で適切なルールに則って行われ、安全かつ確実性が確保され、患者さんにメリットが得られるもののみが医療行為として認められると思います。ただ一方で、「ゼロリスク」の医療行為はなく、治療が高度に

なればなるほど治療に伴う合併症のリスクも高まることは周知の事実です。しかし、リスクが伴うからといって治療を諦め、がんを治すチャンスを逃がすことになってはなりません。「事故のリスクがあるから飛行機を決して利用しない」というのと同じことになります。私たちは、リスクを伴う全ての医療行為について、病状をくわしく説明し、治療選択肢を示し、リスクについても丁寧に説明し、十分ご理解・ご納得していただいたうえで、患者さん自らの治療選択を尊重・支援いたします。治療にあたっては、第一に安全性を考え、そしてがんを治すことを目指して、力を合わせて全力で取り組みます。

また、どこの医療施設でどんな治療を受けるかは患者さんの基本的な権利です。他施設の意見を求めるセカンド・オピニオンは今や当たり前のことであり、他医療施設の意見を参考に治療を自己選択されるのはたいへん望ましいことです。セカンド・オピニオンを希望される場合は、どうぞご遠慮なく、各診療科医師・看護師または患者相談支援センター内のセカンド・オピニオン相談センターにお申し出下さい。

私たちは、まず病院内の仕組みを古いものから新しいものに変革し、数年後に予定されている新病院建設に向けて、真の意味で生まれ変われるようにいたします。今後ともどうぞよろしく願います。

臨床の現場から

治験事務局の役割

治験事務局 廣中 秀一

治

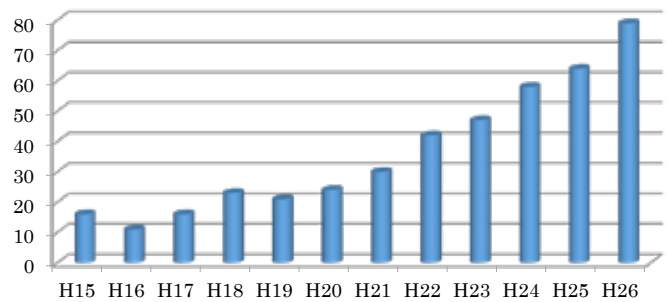
験とは、医薬品や医療機器の製造販売に関して、保険承認を得るための臨床試験であり、「治療の臨床試験」の最初と最後の文字からできた造語です。新薬が誕生して、日常診療で使われるようになるためには、厳しい基準のもとに試験が繰り返され、有効性と安全性を確かめながら段階的に進められます。我々治験事務局は、治験が円滑に進められるように支援する役割を担っています。

治験事務局は、医師、薬剤師、治験コーディネーター、治験事務員から構成されています。治験依頼者（多くは製薬企業）から医師に治験の依頼が入りますと、治験事務員らによるヒアリングを経て、患者さん向けに治験内容を説明した同意説明文書の作成に入ります。これは、あらゆる患者さんに理解して頂けるような解りやすい文書の作成が求められます。また同時に契約手続きを行います。資料の準備が整うと、当センターの内部委員と有識者を含む外部委員で構成される治験審査委員会で倫理性・科学性の観点から治験の実施について問題がないか

どうか、審議がなされます。そして、治験審査委員会の承認を得た後に、契約が締結され、ようやく患者さんが治験に参加可能になります。

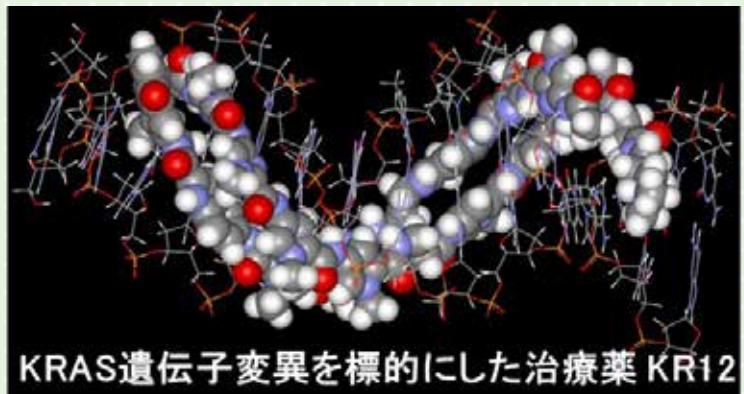
我々、がんセンターは千葉県のがん専門病院として、多くの治験を受け入れ、多くの患者さんに参加して頂いております。その数は10年前と比較すると4倍です。このように治験を行うことで、新しい薬剤や医療機器が厳しく科学的に評価され、有効性が示された薬や機器は規制当局の承認を得て、実際の診療に使われるようになり、それが医療の進歩に結び付きます。我々治験事務局は、千葉県のがん専門病院で働く一員としての自覚を持ち、千葉県のがん患者さんに最新の医療を提供できるよう、しっかりと支援していきます。

年度別の治験件数の推移



研究所の創薬研究等が日本医療研究開発機構から援助を受けました。

医療分野の研究開発を一元的に管理し、基礎研究から実用化までを切れ目なく支援するため、2015年4月に国立研究開発法人日本医療研究開発機構（Japan Agency for Medical Research and Development：AMED）が設立されました。旧来の厚生労働省、文部科学省、経済産業省の研究開発を一元化して我が国の医療の向上を目指す新たな組織です。研究所は、永瀬所長、中村主任研究員、村山主任医長らが研究代表を務める3つのプロジェクトと永瀬、田川部長が分担代表となる2つのプロジェクトでAMEDの援助を受けます。AMEDの目的は、生命を延ばすとともに生活や人生の質の向上をも含めた成果をいち早く人々に届けられる医療研究開発の実現で、生命・生活・人生の「3つのLIFE」の具現化を目指す研究開発を応援することです。研究所ではこの援助のもと大腸、肺、小児のがんの治療を目指し研究を進めます。



地域医療連携室だより



呼吸器科内科の紹介

部長 新行内 雅斗

平

成27年4月より、呼吸器内科部長を拝命致しました。現在、呼吸器内科は4人体制で診療にあたっております。肺癌の診断には気管支鏡検査が重要な役割を果たしております。近年、超音波気管支鏡が開発され、コンベックス型超音波気管支鏡を用いると中枢気道周囲のリンパ節病変などを超音波ガイド下でリアルタイムに穿刺して細胞を採取することができるようになります。当センターでは、平成20年に本格的に導入してから、現在までにのべ1900件近くの症例に検査を行っております。リンパ節転移の有無を正確に診断することは、手術や放射線治療の適応などの治療方針を決める際に重要です。PET-CTなどの画像診断に加え、超音波気管支鏡検査を行うことで、リンパ節転移の状況をより正確に診断できるようになります。また、手術や放

射線治療の適応がない進行肺癌でもコンベックス型超音波気管支鏡検査は有用です。肺癌の実臨床ではEGFR、ALKなどの遺伝子変異を調べることができるようになり、それに対する分子標的薬も開発されてきております。したがって、気管支鏡検査では病理診断だけでなく、遺伝子変異を検査できる量の検体採取も必要になってきています。進行肺癌でリンパ節転移が認められる場合には、コンベックス型超音波気管支鏡でリアルタイムに穿刺を行うことで、病理診断と遺伝子変異を調べることが可能な検体量を採取することが可能になってきております。

診断以外では、私どもは進行肺癌の治療にも関わらせて頂いております。肺癌は脳や骨などの他臓器にも転移しやすい疾患です。脳外科や整形外科の先生方も肺癌診療に関わって下さっております。更に、緩和医療科、放射線治療などの様々な腫瘍専門の先生方に御指導して頂きながら肺癌の診療が成り立っております。このような当センターの強みを活かして肺癌診療を充実させたいと思っておりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

診療実績

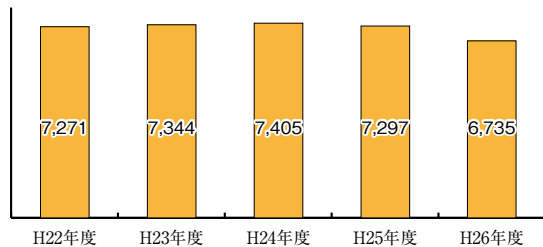
患者数の動向

診療情報管理室

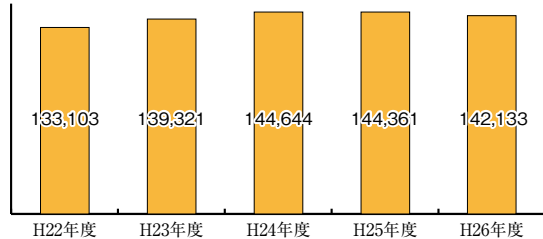
平

成26年度の新患数は前年に比べて562人減っています。それに伴い、外来患者延数、入院患者延数、手術件数もそれぞれ減少しています。

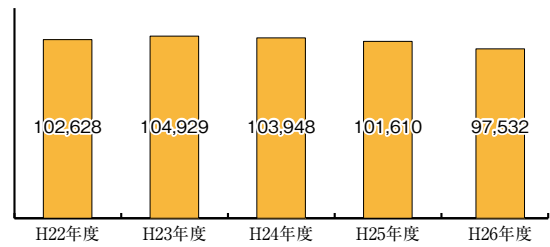
1. 新患者数 (人)



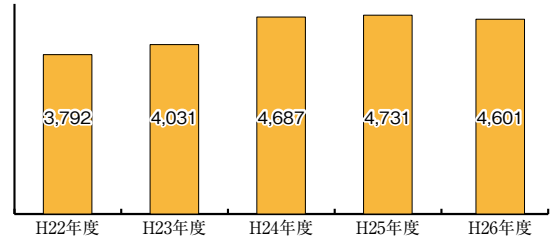
2. 外来患者延数 (人)



3. 入院患者延数 (人)



4. 手術件数 (件)



初診担当医表

2015年7月1日現在

【予約受付時間】

月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)
9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
消化器外科	池田 篤 外岡 亨 有光 秀仁	山本 宏 鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 池田 篤 貝沼 修 小林 亮介 (奇数週) 知花 朝史 (偶数週)	永田 松夫 鍋谷 圭宏 滝口 伸浩	山本 宏 貝沼 修 早田 浩明 今西 俊介
消化器内科	傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人 喜多絵美里	傳田 忠道 原 太郎 須藤 研太郎	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 中村 和貴	傳田 忠道 原 太郎 廣中 秀一	中村 和貴 須藤研太郎 三梨 桂子 北川 義康
呼吸器外科	飯笹 俊彦		飯笹 俊彦		飯笹 俊彦
呼吸器内科	芦沼 宏典	板倉 明司 新行内雅斗 芦沼 宏典	吉田 泰司	板倉 明司 新行内雅斗 吉田 泰司	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 島崎 怜理	椎名 伸充	中村 力也 島崎 怜理	椎名 伸充	中村 力也 島崎 怜理
形成外科				徳元 秀樹 秋田 新介	徳元 秀樹
婦人科	(担当医)	田中 尚武 鈴鹿 清美 (腹腔鏡手術) 井尻美輪	(担当医)	田中 尚武 鈴鹿 清美	(担当医)
泌尿器科	小丸 淳 佐藤 陽介	植田 健 佐藤 陽介	竹下 暢重	小林 将行 梨井 隼菱	深沢 賢 篠崎 哲男
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢美樹子	辻村 秀樹 菅原 武明 伊勢美樹子	熊谷 匡也 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢美樹子	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦	(担当医)	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	堺田 司
頭頸科	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興		佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	
整形外科	石井 猛 米本 司	石井 猛 岩田慎太郎		石井 猛	米本 司 岩田慎太郎 鴨田 博人
緩和医療科	秋月 晶子	秋月 晶子		秋月 晶子	秋月 晶子
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		戸川 貴史	久山 順平	久山 順平	戸川 貴史

【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号) 地域医療連携室 予約担当

- *当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
- *初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

看護の現場から

看護相談

緩和ケアセンター 疼痛認定看護師 樋口こず絵

患者さんの多くは身体・精神的苦痛を抱えている方が多いのですが、がんと共に生活することの難しさや工夫を患者さん・ご家族から相談を受けることも多いです。治療や病状に関連した症状との付き合い方、今後の治療や療養における悩みは尽きないように思います。その様な悩みや迷いが少しでも晴れ、その方が大切にしたいと思うこと、また大切なことと向き合えるように、各科の看護師、医療スタッフと協働しながら支援を行っています。

多忙な現場では、看護師も患者さん・ご家族と向き合うことの難しさや葛藤を抱えていることも多いように感じます。看護師自身が患者さん・ご家族と向き合え支援し続けられるよう、一緒にサポートをすることの大切さを日々感じています。

患者さん・ご家族が直接相談出来る場として専門・認定看護師を中心に「看護専門相談」を行っています。当該科の医師・看護師との情報交換を密に行いながら、外来・病棟と継続した支援が出来るよう取り組みを進めています。

緩和ケアセンター がん専門看護師 高橋 純

現在、専門看護師は、がん看護をはじめ11分野が特定されています。その役割としては、実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究を行うことが求められています。私は2015年4月より緩和ケアセンターに配属され「がん看護外来」を担当しています。がんと診断された時から切れ目のない緩和ケアが提供できるよう、外来ラウンドや苦痛のスクリーニングを行い、希望があれば看護面談（カウンセリング）を行っています。痛みや辛い症状で困っている、がんという病気とどのように向かい合っていけば良いかわからない、もう治療がないと言われて気持ちの落ち込みが強い、今後の療養の場をどうすればよいかかわからない、ご家族の不安に答えるのが難しいなど、患者さんやご家族の対応でお困りの際は、お気軽にご相談ください。医療スタッフの皆様と情報共有しながら一緒に考え、症状緩和、心理社会的支援、意思決定支援、家族支援を行い役割を發揮していきたいと思っております。

第23回 ふれあい広場紙ヒコーキ大会

平成27年6月5日金曜日午後1時より、第23回ふれあい広場紙ヒコーキ大会が開催され、東病棟中庭で多くの職員が見守る中、患者さんが東病棟バルコニーから紙ヒコーキを一斉に飛ばしました。当初は5月29日に開催を予定していましたが、あいにくの雨により延期。不安定な天気が続くこの時季だけに次回開催も心配されましたが、最後まで予定通り開催することができました。

病院長のあいさつの後、司会者のホイッスルの合図で患者さんは一人2回ずつ紙ヒコーキを飛ばします。時折吹く風が紙ヒコーキを空高く舞い上がらせ、もしや屋上に行くのではとひやひやする場面も。

今回、約580の紙ヒコーキが飛ばされましたが、その中から飛行距離、デザイン性等を基準として選ばせていただいた27名の患者さんに、午後4時からの表彰式にて賞状と景品をお渡ししました。

1階のふれあい広場に紙ヒコーキを飾らせていただく際、折り方に工夫が凝らされたものや、「元気なろう。」「スタッフの皆様の優しい笑顔、優しい声がなよりの薬。」「本当にお世話になりました。」というあたたかい言葉が書かれたものを見つけました。

最後になりましたが、ご協力いただいた仁戸名特別支援学校の先生方、職員の皆様、本当にありがとうございました。





県民公開セミナー

毎年恒例の県民公開セミナーについて、今回は「ここがすごい最新の抗がん剤事情」をテーマに開催します。前半は筑波大学医学部医療系臨床腫瘍学の教授である関根郁夫氏に「こんなに進歩した肺がんの抗がん剤治療」について講演をしていただく他、がんセンター所属医師・看護師が「抗がん剤副作用対策」「前立腺がんの抗がん剤治療」「千葉県がんセンターが開発する薬と新薬が患者に届くまで」について講演を行います。後半はがん相談支援センターの紹介と、参加者の皆様から集められた質問に関して講演者を交えながらディスカッションを行います。

がん治療についての理解が深められる貴重な機会ですので、より多くの方にご参加いただけますようご案内申し上げます。

日時 平成27年10月18日(日) 13:00~16:00

場所 京葉銀行文化プラザ (JR千葉駅より徒歩3分) 6階 会議室

定員 300名 (入場無料)



スターバックス「病棟ミニカフェ」を開始しました

病棟ミニカフェ・スタッフから頂いたメッセージをご紹介します。

3月より始めた病棟での、コーヒーテイasting。

患者さんや、お見舞いの方がどんなリアクションをされるのか、初の試みであり、緊張とわくわくした気持ちで向かいました。ここでは、多くの方がコーヒーを楽しんでくださり、またお試しする事の出来ない患者さんは香りだけでもと集まってくださいました。

自分達が、ここがんセンターで何が出来るだろうと考えていましたが、患者さんとの触れ合いで、多くの感動を頂いただけでなく、励まされ、またもっと楽しんで頂きたいと考えるようになりました。

このような機会を与えて頂いたことに感謝します。患者さんが元気にコーヒーを楽しんで頂けるよう、支援していきたいと思ひます。

◆毎月第2水曜日 4階エレベーター前ロビー

◆毎月第4水曜日 6階エレベーター前ロビー

◆時間は午後3時~

※数に限りがあります。ご了承ください。



初回である3月3日は東病棟3階食堂にて開催



3回目の開催場所である西6階エレベーター前ロビーにて

ご案内の	

JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 菅田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

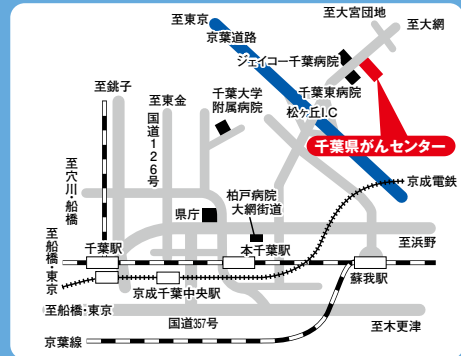
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター
〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<http://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>